

みんなで作る里山プロジェクト

2024年4月5日6日
Episode. 8



原寸
博物誌



あすなるしぜん探検隊

菅生沼やあすなるの里の動植物をしぜん探検隊が主体となり、「自分の力」で調べ(調査し)、記録を重ねていく体験事業です。みんなの知識を集約しながら互いに勉強します。ステップ・バイ・ステップで大きなデータベースを作ることをめざします。

ハクビシンの頭骨 / 沢田 明衣

虫



▲しゅっぱーつ! (4月)



▲しゅっぱーつ! (4月)

4月

●あすなろの里～菅生沼ふれあい広場

4月13日(土) 10:30～12:00 晴/弱風/17℃

【A班調査員】杉岡和樹、藤井啓、萩柁和、宮崎健介、川島智至

4月14日(日) 10:30～12:00 晴/弱風/23℃

【B班調査員】沢田明衣、上山裕平

【リーダーいすれも】常総みどりの会(上山耕平)

観察した種

チョウ目

キタキチョウAB
ベニシジミAB
ツマグロヒョウモンA
モンシロチョウAB
カタテハA
ヤマトシジミA
スジグロシロチョウB
モンキチョウB
ヤマトシジミB

バッタ目

シビロカヤキリB
ツチイナゴB
カメムシ目
ナガメB
ホオズキカメムシB
トンボ目
アジアイトトンボAB
ホソミイトトンボB
ホソミオツネトンボB

コウチュウ目

ナナホシテントウAB
エンマムシのなかまB
ヒメアカホシテントウB
ヒメカメノコテントウB
ピロウドコガネB
ホシボシゴミムシ?B
ムナビロアカハネムシB
ヨツボシハムシB



ベニシジミ



ツマグロヒョウモン



ホソミイトトンボ



標本作りレクチャー



◀◀午後の同定会

リーダーのメモ

晴天で初夏のような気温になったこともあり、数多くの昆虫を確認できた。そのなかでも、成虫のまま越冬する種だけでなく、春に成虫となる種類も複数確認できた。

里山プロジェクトの参加者も2年目になり、昆虫を捕まえるだけでなく、同定する力も開始時より格段に向上しています。この1年でさらに多くの種類が確認できるだろうと期待しています。個人的には菅生沼のトンボの記録を増やしたいと思っていて、イトトンボの間ではクロイトトンボやセスジイトトンボ、ヤンマではヤブヤンマやネアカヨシヤンマが記録できたらと思っています(上山)。



ちょうす(手水)をつかいます

一言主神社にお参り



観察が終わったあとに、神主さんのお話を伺いました(6月)

昆虫の先生から

春から初夏にかけて、昆虫を記録することができました。モンシロチョウのように毎回記録されて種もいますが、調査日によって記録できた昆虫が違ってきました。

季節の移ろいを感じ取ることができたのではないのでしょうか!

里山プロジェクトも2年目になり、徐々にデータも集まってきたことと思います。

リーダーメモにある“クロイトトンボなどをとりたい”というような目標を記すことができるようになったのも、菅生沼の昆虫相について知見が確実に蓄積できているからでしょう! さらなる調査の進展、期待しています。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館/久松 正樹



▲探検開始(5月)



▲探検開始(6月)

5月

●菅生沼ふれあい広場～東仁連川合流部

5月11日(土) 10:30～12:00 晴/弱風/21℃

【A班調査員】杉岡和樹、藤井啓、萩柁和、川島智至

5月12日(日) 10:30～12:00 晴/弱風/27℃

【B班調査員】沢田明衣、関健太郎、上山裕平、畑山純樹、畑山純倫、高見功輝

【リーダーいすれも】常総みどりの会(上山耕平)

観察した種

チョウ目

アオスジアゲハB
コムラサキB
ナミアゲハB
モンシロチョウB
バッタ目
ツチイナゴ
カメムシ目
チャバネアオカメムシB
ホオズキカメムシB
ナガメB

トンボ目

アオモンイトトンボAB
アジアイトトンボB
ウスバキトンボB
シオカラトンボB
ホンサナエB
サラサヤンマA
シオカラトンボA
シオヤトンボA
コウチュウ目
ナナホシテントウAB



シオカラトンボ



サラサヤンマ



サラサヤンマにとまるアオモンイトトンボ



作戦会議中



観察した虫たち

リーダーのメモ

晴天で風もなく良好なコンディションだったこともあり、チョウ目、トンボ目など飛翔する昆虫を数多く捕まえることができた。午後の同定と標本作製の作業は大変だったと思いますが、皆さん頑張ってくれた。当日、確認できなかったクロイトトンボは、翌日に延長戦を行い、おぼれ沼で採集した。菅生沼にはまだまだ多くのトンボがいると期待しています(上山)。

6月

●大塚戸町篠山地区十一面観音南側クリ林

6月8日(土) 10:30～12:00 晴/弱風/24℃

【A班調査員】杉岡和樹、藤井啓、川島智至、宮崎健介、小玉凌我

6月18日(土) 10:30～12:00 晴/弱風/28℃

【B班調査員】沢田明衣、関健太郎、上山裕平、畑山純樹、畑山純倫、高見功輝

【リーダーいすれも】常総みどりの会(上山耕平)

観察した種

チョウ目

ウラギンヒョウモン♂A
メスグロヒョウモン♀A
ヒロオビトンボエダシャクA
ヤマトシジミA
カタテハAB
カノコガA
ツバメシジミA
モンシロチョウA
ルリタテハA
モンキチョウB
モンシロチョウB
アカシジミB
ツバメエダシャクの一つB
ナカグロクチバB
ゴキブリ目
モリチャバネゴキブリA
バッタ目
ツチイナゴAB
カメムシ目
ウシカメムシA

トンボ目

シオカラトンボA
ギンヤンマA
コシアキトンボA
アキアカネB
コウチュウ目
ヤマトタマシA
ゴマフカミキリA
キイロトラカミキリA
コアオハナムグリAB
カミキリモドキの一種B
キマダラミヤマカミキリB
シロテンハナムグリB
セマダラコガネB
ミドリカミキリB
ハチ・ハエ目
オオスズメバチA



メスグロヒョウモン♀



ウシカメムシ



ヤマトタマシ



キイロトラカミキリ



ミドリカミキリ



キマダラミヤマカミキリ

リーダーのメモ

晴天で気温が上がった。栗の花に集まるチョウ目、コウチュウ目を中心に多くの虫を捕まえることができた。午後の同定と標本の作業では、集中して完了させてくれ、さすが、年長のB班というところを見せてくれました。締める作業に私が不慣れなことから、標本作業の途中で昆虫が動き出してしまふことが多くあったことは反省点です(上山)。

植物



▲シーンとした観察(4月)



▲図鑑で調べながら(5月)



▲木陰は涼しい(6月)



▲草むらが茂ってきた(6月)

4月

4月21日(日)10:00~12:00 曇/無風/18℃

●北海道あすなるの里遊びの森

川田いつ子、常総みどりの会(長谷川としえ、藤井悟司)

観察した種(★印は希少種)

アオキ(花) シヤガ(花)(植栽) フタリスズカ(蕾)
 アケビ(花・実) ジュウニヒトエ(花) ヘビイチゴ(花)
 アマドコロ(花) シュンラン(花) ホウチャクソウ(花)
 アメリカフウロ(花) シロツメクサ(花) ミツバツチグリ(花)
 イチヤクソウ(蕾) シロバナタンポポ(花) ミミナグサ(花)
 イヌムギ スズメノカタビラ(花) ムラサキケマン(花)
 ウシハコベ(花) スズメノヤリ(花) ムラサキサギゴケ(花)
 ウラジロチチコグサ(花) セイヨウタンポポ(花)
 オオイヌノフグリ(花) タチイヌノフグリ(花)
 オオジシバリ(花) タチツボスミレ(花)
 オウチカタバミ(花) タネツケバナ(花)
 オニタビラコ(花) ツボスミレ(花)
 オニゲシ(花) ツメクサ(花)
 オランダミミナグサ(花) ナズナ(花・実)
 カキドオシ(花) ニワゼキショウ(花)
 カタバミ(花) ノビル(蕾)
 カスマグサ(花) ノミノツツリ(花)
 ガズミ(蕾) ノミノフスマ(花)
 カントウタンポポ(花) ハナイカタ(花)
 キュウリグサ(花) ハハコグサ(花)
 ★キンラン(花) ハルジオン(花)
 ギンラン(花) ノゲシ(花)
 ヤマグワ(花・実) ヒメオドリコソウ(花)
 ケキツネノボタン(花) ヒメコウゾ(花)
 コハコベ(花) ヒメジョオン(花)
 コメツブツメクサ(花) ヒレアザミ(花)



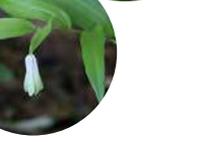
キンラン



ケキツネノボタン



シヤガ



ホウチャクソウ



ミツバツチグリ

リーダーのメモ

キンラン、ギンラン、シュンランと3種見れたのは嬉しい(藤井)。

5月

5月21日(日)10:00~12:00 曇/強風/24℃

●北海道あすなるの里遊びの森

【調査員】福田藍斗、川畑海翔

【リーダー】常総みどりの会(長谷川としえ、藤井悟司)

観察した種(★印は希少種)

ウグイスカグラ(実) ケキツネノボタン(花・実) ヤセウツボ(花)
 ウラジロチチコグサ(花) キツネアザミ(花) コウゲショウ(花)
 イチヤクソウ(花) コナスビ(花) ヤマウド(実)
 オニタビラコ(花) オオジシバリ(花) ヤブタビラコ(花)
 オオイヌノフグリ(花) スズメノヤリ(花) ヤハズエンドウ(花)
 オランダミミナグサ(花) シロツメクサ(花) ヤエムグラ(実)
 ウシハコベ(花) トウバナ(花)
 アメリカフウロ(花) ドクダミ(花) イチヤクソウ
 オウチカタバミ(花) タチイヌノフグリ(花) タチツボスミレ
 オヤブジラミ(実) ツボスミレ(花) ノビル(花)
 イヌガラシ(花・実) ノミノツツリ(花) ノビル(花)
 オヘビイチゴ(花) ニワゼキショウ(花) ヒメヨツバムグラ(花)
 コマツヨイグサ(花) ヒメオドリコソウ(花) ハハコグサ(花)
 ヤマグワ(実) ヒメコウゾ(花) ハナイカタ(実)
 コウゾリナ(花) ハルジオン(花) フタリスズカ(花)
 コメツブツメクサ(花) ムラサキケマン(花) ヘビイチゴ(花)
 カスマグサ(花) ミミナグサ(花) ハルジオン(花)
 ★キンラン(実) ギンラン(花) カタバミ(花) キショウブ(花) ムラサキサギゴケ(花)
 ガズミ(花)



イチヤクソウ



ツボスミレ



ヤハズエンドウ



同定会

遊びの森の奥の方は、草木の背が高かった！
 植物の種類がたくさんあった。
 タケノコがすごく巨大になっていた。
 つくばみらい市/福田藍斗さん

リーダーのメモ

谷津田の植物は多様で楽しいですが、よく観察しないと誤同定してしまいます。これからも先入観を持たずに注意深く観察していきたいと思います(藤井)。

6月

6月9日(日)10:00~12:00 晴/無風/22℃

●北海道あすなるの里遊びの森~キャンプ場

【調査員】福田藍斗、川畑海翔

【リーダー】常総みどりの会(長谷川としえ)

観察した種

イヌガラシ(花) キショウブ(花) ハナニガナ(花)
 イチヤクソウ(花) キュウリグサ(花) ハハコグサ(花)
 イヌシデ(葉) クリ(花) ハルジオン(花)
 イヌタデ(花) ケキツネノボタン(花) ヒメジョオン(花)
 ウシハコベ(花) コヒルガオ(花) ヒメヨツバムグラ(花)
 ウラジロチチコグサ(花) セイヨウタンポポ(花) ヘビイチゴ(実)
 オオイヌノフグリ(花) シロツメクサ(花) ホタルブクロ(花)
 オオバコ(花) ツククサ(花) ムラサキサギゴケ(花)
 オニタビラコ(花) トウバナ(花) ムラサキカタバミ(花)
 オヘビイチゴ(花) ドクダミ(花) ムラサキシキブ(花)
 ユウゲショウ(花) ニワゼキショウ(花) ヤブカラシ(葉)
 コセンダングサ(葉) ハンゲショウ(花) ヨウシュヤマゴボウ(花)
 カタバミ(花) ハエドクソウ(花) ヨツバムグラ(花)
 カントウヨメナ(花) ハキダメギク(花) ワルナスビ(花)



イチヤクソウ



クリ



トウバナ



ハンゲショウ



ドクダミ



ヒメジョオン



ヨツバムグラ

前は遊びの森の奥に進みましたが、今回はキャンプ場の方に進んだのでイヌシデなど、違う種類の植物を観察できました。時間かわったのか、場所が変わったのかをもっと観察して確かめたいと思いました。
 杏の実をとって食べて、甘酸っぱくて美味しかったです。常総市/川畑海翔さん

一ヶ月前よりもいろいろな植物が大きくなっているのを感じた。ハンゲショウの葉が白くなっているのを感じおもしろかった。つくばみらい市/福田藍斗さん

リーダーのメモ

今回、春の花はそろそろ退場で咲き残っているという感じです。ただハルジオンとヒメジョオンが同時に咲いているのは珍しく感じました。ハンゲショウもいつもより早く白化していて温暖化などの影響かなと思います。今回、木々の小さな花に注目でき、実になっていく様子を観察できるかと期待しています(川田いつ子)

植物の先生から

4、5、6月、3回の調査で、100種近くの植物を記録しており、質の高い調査が行われたことがよくわかります。調査の経験を積み重ねることで、調査のレベルが上がってきているように思います。今回の調査で、キンラン、ギンラン、シュンラン、イチヤクソウなどが確認されています。これらの植物は、以前は里山で普通にみられましたが、今では珍しくなっていました。あすなるの里は昔の里山の姿を今に伝える大切な場所です。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館/飯田 勝明

鳥



▲何かいるかな(4月)



▲田んぼにカモが!(5月)



▲双眼鏡の視界には、虫がいました(6月)

4月

4月21日(日) 10:00~12:00

晴 / 19℃ / 風の強さ: 顔に風をかんじる / 風向き: 東南東

●水海道あすなるの里遊びの森

【調査員】竹内 榎【リーダー】坂入 真史

観察した種(出現順): 18種+外来種2種

ウグイス
シジュウカラ
コジュケイ
メジロ
エナガ
シメ
キジバト
ハシブトガラス
コゲラ
アオジ
カワラヒワ
ハシボソガラス
ヒヨドリ
オナガ
ガビチョウ
サシバ
ミソサザイ
オオルリ
モズ
ツグミ



あすなるの里にはあまりいないレアなオオルリをみて良かったです。2月に菅生沼で観察したピンズイが今日は姿や声を聞くことができました。 埼玉県草加市 / 竹内 榎さん

リーダーのメモ

小川の流れてに沿って歩いて行くとにぎやかなミソサザイのさえずりが聞こえてきましたね。そして規則的だけれど、聞きなれないさえずりも…。なんと! あすなるの里ではあまり出会えないオオルリを観察することができました(坂入)。

5月

5月12日(日) 10:00~12:00

曇 / 24℃ / 風の強さ: 草や細かいえだがゆれる / 風向き: 北北西

●水海道あすなるの里遊びの森

【調査員】坂田 雪桜【リーダー】坂入 真史

観察した種(出現順): 14種

シジュウカラ キビタキ
カワウ サシバ
ヒヨドリ サンショウクイ
ウグイス メジロ
ツバメ
ハシボソガラス
ハシブトガラス
カルガモ
ヤマガラ
コゲラ



記録をまとめます

ハシボソガラスとハシブトガラスのハシボソのほうが「ガー」と鳴くから風邪をひいているのか本当のハシボソガラスかわからなかった。

千葉県野田市 / 坂田 雪桜さん

終盤にピリリリというサンショウクイの声が聞こえてきました。(山椒食べてピリリと辛そうという名の由来) 明るい林内では夏鳥のキビタキも終始さえずり爽やかな観察会でした(坂入)。

6月

6月9日(日) 10:00~12:00

曇 / 23℃ / 風の強さ: 紙や帽子が飛ばされる / 風向き: 南東

●水海道あすなるの里遊びの森~キャンプ場

【調査員】竹内 榎、坂田 雪桜 【リーダー】坂入 真史

観察した種(出現順): 15種+外来種1種

ウグイス
コジュケイ
ダイサギ
ノスリ
シジュウカラ
コゲラ
ハシブトガラス
キジバト
メジロ
ヒヨドリ

ツバメ
ハシボソガラス
スズメ
エナガ
サシバ
カワセミ



カラスかな? タカかな?

菅生沼ではセグロセキレイやハクセキレイがいたが、あすなるの里では観察できなかった。カワウも同じだった。 埼玉県草加市 / 竹内 榎さん

リーダーのメモ

植物チームと合同でいきもの調べを行いました。今回は遊びの森を抜けキャンプ場を訪れましたが、おびただしく車両の搬出があり鳥たちの声や姿をあまり感じることができませんでした。この日はサシバが水田でハンティングを終え、森の奥に消えていく姿を目撃しました。(坂入)

鳥の先生から

4月の観察種のオオルリには出現もですが写真も撮れて、驚きでした。繁殖地への移動の立ち寄りと思われるが、菅生沼周辺には渡りのルートがあるのかもしれませんが。立ち寄りには短い期間だったと思われ、その一瞬に出会えてよかったですね。秋の渡りの時期も新しい出会いが期待できそうで、楽しみになってきました。また、サシバが毎月記録されています。時期的に繁殖の可能性が考えられます。サシバの好む繁殖に適した環境は、どういところだったでしょう。

日本野鳥の会茨城県 副会長 / 内田 初江

協力: ミュージアムパーク茨城県自然博物館
日本野鳥の会茨城県

自然科学教育普及団体地球レベル

有識者: 内田 初江 / 林 恵治 / 川田 いづ子 / 川村 直央

写真協力: 藤井 悟司 / 坂田育代 / 竹内明子

調査員サポート: 保護者の皆様

ボランティア: 自然観察同好会常総みどりの会

制作: gaia graphics

企画: (一財)水海道あすなるの里 自然教室担当・指導員 坂入 真史

発行日: 2024年8月1日